福井県・若狭美浜

若狭美浜はあとふる体験
「生きぬく強い心を」

福井県美浜町は、人口約9500人、町の端から端までは車で約30～40分の距離の中に、日本海の中でも豊富な魚種が採れる「若狭湾の漁村」、ラムサール条約登録湿地にも認定された景勝地「三方五湖」の湖村、山には木々が生い茂り、澄んだ空気と清らかな川が流れる豊かな自然の中で営む「若狭路の農村」。さらには、町の名の通り日本海に面した美しい「水晶浜」が魅力的です。

一つの町で漁村文化、湖の文化、農林業の文化を育んでいるため、若狭美浜はあとふる体験ではこの自然豊かな地域の資源を生かし、「漁業体験」「農林業体験」「自然・アウトドア体験」「伝統味覚体験」「工芸・歴史文化体験」とバリエーションに富んだ体験プログラムを整えています。

私たちは、「素顔の美浜に出会える」をコンセプトに美浜のありのままの暮らしを感じ、訪れる人々と地域の人々が体験を通じて交流を行う。自然や風景を守り、伝統や文化を伝え、食を育み、互いが心高まる、感動する交流・感交」をしたいと取り組んでいます。

また、京都から1時間半から2時間に位置し、さらには北陸の古都金沢からも、約1時間半の距離となり、関西圏、北陸圏からも非常にアクセスの良い地域と言えます。

若狭美浜はあとふる体験では農林業体験8プログラム、自然・アウトドア体験6プログラム、味覚工芸歴史文化体験では19プログラムがあります。

その中から、地域のインストラクターと共に汗を流し、本物のリアルな現場を体験することによって、「生きる強さと自分の考え方を持ち、自発的に行動できる人間へとつなげていける体験プログラムの一部をご紹介します。

ボート体験（信頼関係と、物事を継続して活動できる心づくり）

チームワークの大切さを肌で感じ、人間関係を構築する能力を育むことができる人気プログラムです。漕ぎ手4人とコックス（舵とり）1人が艇に乗り込み、湖を漕ぎ進みます。「一艇ありて一人なし」という言葉のように、一人が頑張っても速く進まず、全員の呼吸が一つになった時、はじめて湖面を滑るように進むことができます。

民泊体験（心の温かさと人としての礼儀の心づくり）

現在、人間関係の希薄さが問題となっている中、民泊体験を通じて、人の温かさ、自分を応援してくれる気持ちを肌で感じる機会を大切にしています。

自分の存在価値を再確認し、自分も高まりたいという意思、意欲を伸ばしていけるよう「心の平和教育プログラム」として「田舎の温かさや人とのつながりの大切さ」を伝えています。

子どもたちは、初めて出会う新たな家族と緊張の面持ちで対面します。けれど、一緒に食事の準備をし、みんなで食卓を囲んで団らんするうちに、互いに歩み寄ろうとすることから交流が生まれます。ここで、大人や異年齢の他人との交流の方法を学ぶのです。

若狭路新鮮素材で作るマイ海鮮丼作り（食の文化と若狭の漁村と農村の現状を知る）

福井県は47都道府県に先駆け、丼文化先進県として名乗りを上げており、お米の代表的品種「コシヒカリ」の発祥の地でもあります。このコシヒカリと、若狭湾で捕れた新鮮な魚を自分自身で海鮮丼に合った形でさばき、マイ海鮮丼を作ります。

チームワークを育むボート体験

みんなで食卓を囲む
受け入れ家庭での食事

「マイ海鮮丼」の調理

若狭美浜はあとふる体験推進協議会
〒919-1131 福井県三方郡美浜町木野21-4-1
〈㈱旅工房内〉
TEL 0770-32-6666　FAX 0770-32-6667
URL https://heartful-mihama.wixsite.com/mihama

滋賀県・近江日野

農山村で課題解決型の修学旅行を
三方よし！近江日野田舎体験（さんぽう）
農泊と家業おまかせプランで心の交流

私たちのまち日野町は、〝売り手よし　買い手よし　世間よし〟の「三方よし」の精神で常に社会貢献の心を忘れず、商いに精進した近江日野商人発祥の地です。近江商人の三方よしの教えにならった生徒個々の生きる力を育む近江日野田舎体験と、京都・奈良だけでなく、かつて「近江を制すは天下を制す」と言われた近江の国　滋賀県での歴史文化学習との両立プランはいかがでしょうか。

近江日野の農村生活体験（農泊）は、先生方の本部宿からわずか15分圏内に150軒の受け入れ家庭を有します。1軒4人を基本に分宿し、その時期にある作業やものづくりなどをそれぞれの家庭で体験します。日野町へは京都や奈良、名古屋からバスで約1時間30分、名神高速、新名神高速主要インターからも約30分と、関西圏・中部圏との交通アクセスは大変良好です。

■課題解決型の修学旅行ご提案～農村生活体験（農泊）と家業おまかせプランで心の交流を～

近江日野の農村生活体験（農泊）と家業おまかせプランは、世代や職業の違う受け入れ家庭の生業、農村のありのままの暮らしを体験し、その体験を通して心の交流が深まることになります。

ミュニケーション能力の向上」が期待できます。各家庭ではさまざまな体験ツールを用意し組み合わせることから、1軒ずつ内容もスケジュールも異なります。また、食生産現場での体験、受け入れ家庭との共同調理、食することによる「②農作業の大変さ、喜び、食育」の理解の促進とともに、家庭との共同作業、共通体験を通して「③達成感や豊かさ」をより深く体感いただくことができます。農村生活体験（農泊）と家業おまかせプランを通して、生徒たちの「④リーダーシップの資質向上」「⑤主体性、協調性」を養うプランは数多くの学校さまにご支持いただいています。

体験することが目的なのではなく、体験を通して交流を深め、人としての成長を促すことが最も大切だと、近江日野田舎体験では考えています。教室の中だけでは学ぶことが難しい「ひとりひとりが考え、行動する力」を養うことができる場をご提案いたします。

おかげさまで三方よし！近江日野田舎体験は、教育旅行の受け入れを始めて11年目となります。安全安心、そして教育効果の高い受け入れに向けて地域一丸となって取り組んでいます。皆さまのお越しをお待ちしております。

タマネギの収穫を体験

受け入れ先の家族とポーズ

収穫したジャガイモを洗浄

離村式で抱き合ってのお別れ

一般社団法人 近江日野交流ネットワーク
（日野町役場商工観光課内）
担当：中森雅之・西河佳子　行政支援：中江凌・福本修一
〒529-1602 滋賀県蒲生郡日野町河原1-1
TEL 0748-52-6562　FAX 0748-52-8888
E-mail inakataiken@omi-hino.jp
URL http://www.omi-hino.jp/

「主体的・対話的で深い学び」へ

京都府・山城地域

宇治茶の郷で民泊・田舎体験
京都駅から1時間、登録家庭は120軒

宇治茶の産地であり、山を覆うように美しい茶畑が広がる、京都府南部、やましろ地域。茶畑や茶工場の間に民家が点在する独特の風景があり、日本遺産「日本茶800年の歴史散歩」の舞台でもあります。京都府産の宇治茶の約7割を生産するお茶の郷、和束（わづか）町と南山城村、そして歴史と観光資源に支えられた笠置（かさぎ）町の3町村を中心に、広域で農泊事業を進めています。

京都・奈良に近い田舎やましろ地域は、京都市内、大阪市内から車で1時間強、宇治市や奈良市から30～40分という立地にあります。都市圏に近いわりに、京都にもこんな田舎が?と驚かれるくらい、豊かな自然と素朴な暮らしが残っています。京都や奈良での歴史学習と併せて、田舎体験が可能です。

民泊～家庭での茶文化・田舎体験～

やましろ地域の特産は、やっぱり宇治茶。受け入れ家庭は、すべてのご家庭が茶農家というわけではありませんが、親戚に茶農家がいたり、身近に茶畑が広がる地域です。

お茶を淹（い）れて飲む時間を取り、茶畑を散策し、暮らしの中に息づく茶文化を感じていただきます。お茶を摘み、晩ご飯にみんなで茶葉の天ぷらを。畑のあるご家庭では収穫した野菜や山菜、地元の産品を使い共同調理します。収穫のほか、種植えなどの畑作業や、家業体験、薪（まき）割り、伝統的なものづくりや遊びなど、どの家庭も工夫を凝らし、子どもたちにとってよい思い出になるよう準備しています。

団体での茶文化体験

クラスなどで同じ体験を共有したい場合には、団体での体験プログラムのご用意もあります。茶畑景観をめぐりながらお茶や茶づくりについて学ぶ茶畑散策をはじめ、お茶摘み体験、茶工場見学や、煎茶のおいしい淹れ方体験、室町時代から歴史がある茶香服（お茶の飲みあてゲーム）など、楽しみながらお茶に親しみ、学んでいただけます。

300人までの受け入れが可能

受け入れ家庭のある和束町、笠置町、南山城村の3町村はいずれも、人口減少と少子高齢化に悩む地域。子どもたちとふれあい、交流を楽しみながら、そんな町に活気を取り戻すこと、歴史ある茶業や、茶が身近にある生活を守り伝えることを目的として事業を行っており、賛同した方々が受け入れ家庭になってくれています。

2014年度より海外の団体などから受け入れを始めて今年で6年目。登録家庭は3町村で120軒を超え、この春には、国内の中学校6校の受け入れを達成、インバウンドも入れると4月から7月までで26件、毎週のように受け入れできる態勢が整ってきました。これからも、農村民泊が皆さまとこの地域の架け橋になるよう、さらに内容を充実させていきます。

フライパンでほうじ茶作り

お茶を摘んで天ぷらに

家族と一緒に食事作り

夢中になる薪割り

京都やましろ体験交流協議会
（一般財団法人 和束町活性化センター内）
担当　下村　／　お問い合わせ　平日8：30～17：00
〒619-1222 京都府相楽郡和束町白栖大狭間35
TEL 0774-78-3396 FAX 0774-66-3496
E-mail:wazuka-t@chagenkyo.com

奈良県・飛鳥地域

生きる力を育む～体験がミライを創る
大和・飛鳥民家ステイ

日本の国が始まった地、奈良県で「民家ステイ」の受け入れを行っています。

今を生きる生徒たちをとりまく環境は急速に変化しています。日常生活の中でも仮想的な体験ばかりが増え、「生きる力」を育む機会が少なくなっています。仲間と共に、今までの経験をもとに工夫・判断すること、初めて出会った人とコミュニケーションをとり、関係を築くことが民家ステイでは求められます。ここでの経験を通して身に付けてほしい力は、まさに社会に出たときに役立つものと考えています。

民家ステイは、地域のホストファミリーのいつも通りの生活の中に入り、家族の一人として過ごすプログラムです。食事作りや団らんなどを通して、ホストファミリーと一緒にいていっぱい話すこと、交流&コミュニケーションが肝。体験は目的ではなく、交流するための手段だと位置づけています。

古代の遺跡が点在するここ大和・飛鳥は、自然体験学習や社会体験学習に加え、実物に直に触れる歴史学習ができることも特徴の一つで「総合的な学習」の実施が可能な地域です。都会にはない地方の魅力や課題について学ぶ貴重な機会としてもご利用いただいています。また、ステイ中の食事作り体験は、「孤食」の問題点が問われる今こそ「共食」の大切さを見直せる契機にしてほしいと考えています。

「大和・飛鳥民家ステイ」でできる探求学習

①地方の暮らしに触れることは＝日本のミライの問題点に触れること

都会では埋もれてしまっている問題が地方では既に顕著化されています。自身の住む地域と比較することで、家族や自分に対する思いを振り返る比較学習も可能。景観保全のメリットやデメリットを学び、持続可能な地域づくりを考えます（＝SDGsにつながる学習）。

②民家ステイワークシート活用でより深い学びを

事前に自ら課題を見つけ、情報収集し、整理してから、民家ステイ当日を迎えられるシートをご用意します。体験だけで終わらせることがないよう、事後の振り返りの時間を取ることで、何か一つでも持ち帰ってもらいたいと考えています（＝比較学習）。

③命をいただくことを身近に感じる～食育

日常ではなかなかできない調理体験。生産現場を見たり、農作業を体験したり、ホストファミリーと一緒に調理し片付けまですることで、食に対しもっと関心を持ってほしいと願います。毎日食事を作ってくれる親への感謝の気持ちが芽生えたり、食わず嫌いが直ることもあります。

日本の国が始まったこの地で、新しい家族に出会うのが「大和・飛鳥民家ステイ」です。その新しい家族に会いに、また、この地に戻って来てほしい。一人一人の生徒にとって、宝物のような時間になってほしい。そして、「ほんもの」の体験を通して、常に自ら考え行動できる人であってほしいと願いながら、生徒を送り出しています。

受け入れエリアが広域化

飛鳥エリア、宇陀エリア、下市エリアに約120軒のホストファミリーを有し、約450人の受け入れが可能となりました。

石舞台古墳をホストファミリーのガイドで巡る

食を考えるには生産現場に立つことが第一

家族との団らん

ホストファミリーとクラフト体験

一般社団法人 大和飛鳥ニューツーリズム
〒634-0112 奈良県高市郡明日香村島庄5番地
TEL 0744-54-1525　FAX 0744-54-1526
E-mail:info@yamatoasuka.or.jp